

梅鶯仏教壮年会報

第104号
2013年
2月24日

梅鶯仏教壮定期総会

三月三十日(土)

午後六時より

役員会

同日

午後四時より

誰れひとりー

風を見ることはできない。

雲が流れ 葉がそよぎ、

肌にふれるのを感じて、

人は 風をするのである。

そのようにー

仏陀(みほとけ)は

いろんな縁をもって

煩惱(ぼんのう)の眼(まなこ)で

何も見えぬ私に

そのお姿をいらせてくださる。

寺川幽芳先生編

「こころの掲示板」より

兄の死

北村宗吾

今年の初頭に兄はお浄土に旅立ちました。

余りにも突然の死に家族は勿論のこと、誰も信じられない」と驚きを隠せない様子でした。



決して「もう歳だから」と弱音を

も旺盛で、早くから携帯電話で孫とメールを楽しんだり、電子辞書やワープロを使いこなすなど、進化の激しいIT時代の波にも乗り遅れることのない姿は、とても93歳とは思えないものでした。

亡くなる二日前までは自転車に乗り、寒さの中でも毎日畑仕事を欠かさなかった兄でしたが、握力の衰えから、字を書くことが困難となり、ワープロで日記を打ちプリントアウトしてそれを5年日誌に貼り付け、その分厚く、いびつに膨れ上がった日誌を皆に見せ、笑わせてくれていました。

ご住職の法話の中で「往生」という言葉の意味について、お話し下さったことを思い出します。

「往生」とは、お浄土に「往生する」ということであり、私たち浄土真宗門徒にとっては「阿弥陀様の国、お浄土に生まれて仏と成り、すぐさますべての人を救う」というのが教えであり、それが「往生」であるとお話し下さいました。

「死んだらお終い」ではなく、「花びらは散っても、花は散らない」のみ教え通り、確かに身体・姿はなくなりますが、兄の生き様は残された私たちの心に大きな影響を与え続けてくれるでしょう。

私は、毎日が人生最後の一日だと思つて生きる大切さを心から理解した気がします。

阿弥陀様のご本願により、必ず仏と成らせていただく身の幸せを知り、報恩のお念仏を称え、心豊かに、人生を一步步進んでまいります。

合掌

題材法話

○正信偈を味わう(18)

然いよ七高僧最後の法
法上人は、親鸞聖人が
直接に師事され、大きな影
響を受けられました。美作
平安末期に岡山県で、
豪族武士の一人として生
まれ、幼名は勢至丸と名付
けられました。父の漆間時
国が逆恨みから夜討ちをか
けられ、臨終の際、決して
仇を討とうと思わず、それ
よりも僧侶となつて仏道に
励み、自分の菩提をとぶらな
さい、と諭された。成りな
は、怨みをお釈迦様の「怨み
やむ」という説法によるも
のだと考えられます。こ
の父上の言葉が勢至丸を、
後に法然坊源空上人と讃え
られる人に変えたのです。
○智慧第一の法然坊
勢至丸は、非凡な才覚
を表して、十三歳で



当時の最高学府であつた比
叡山に入り、二十五年間に
渡つて学ばれ、一切経と呼
ばれるあらゆる經典を集め
た膨大なお経を5回も読み
れたと言われます。法然
房「と」呼ばれる第一の法
のすが、こんなエピソード
がある時、念仏門を説き始
めた法然上人をこころよく
思われない比叡山の学僧が、
法然上人に論争を仕掛けて
詰問に答えようが、あまり
上人はただ微笑されて黙つ
てしまわれました。帰つて、
その僧は叡山に帰つて、
師匠である学僧に「法然坊
は私の指摘に返事ができな
かつた」と得意げに報告し
たところ、その師匠は「そ
れは、話しても無駄な相手
とみられたからだ。法然は
天台の学問を究めた上で、
仏教各宗派の学問もすべて
修学し、智慧深遠な人物で
す。返答できなく
て口をつぐんでし
まったなどと考え
たら大間違いです
ぞ」と諭されたそ



うです。○善導の導き
鎌倉に上存命の平安から
飢饉や戦禍の連続で、まさ
に「餓鬼」と「修羅」の世
界が現実展開されていた
時代です。そんな中で仏教
も、僧侶達が民衆とは遠く
かけ離れた存在となり、徒
党を組んで権力闘争に明け
暮れる始末でした。徒
一法然上人はその仏教界を
「すでに戒定慧の三学（仏
教の基本）の器にあらず」と
嘆き悲しまれましたが、
その「観經疏」というお経の
中の「お念仏の世界にお出
で、目からうろこが落ち、
ただただ本願のありがたさ
に感謝されたといわれてい
ます。法然上人は「偏依善導
（ひとえに善導による）」
と仰られるほど、徹底して
善導大師よつて念仏往生を
確かなものにされ
たのです。その念仏往生を
まとめられた有名を
な書物が『選択本



願念仏集』です。○濁世を照らす灯火
て、法然上人は比叡山を下り
て、東山大谷の地に移り住
み、八十歳で往生されるま
で約四十年間、晩年の流罪
の時を除いて、様々な多く
の人々に本願念仏の道を広
め続けられました。特定の
の仏教が、庶民中心の在
○濁世を照らす灯火
本師源空明仏教
憐愍善悪凡夫人
真宗教証興片州
選択本願弘恵世
は、「私の師である源空上
人、善人悪人の区別なく、
すべての人を憐れみ悲し
んで、浄土真宗の教えを日
本の国に興され、弥陀本願
よる念仏往生の道を選びと
つて凡夫の世に弘めて下さ
いました。末法の世で人々が救われ
る教えは本願にしか無いと
言うことで、法然上人によ
つて示された念仏往生の
が往生できる念仏往生の
えは、まさに世の中を照ら
す灯火となつたと悦ばれて
います。以下次号（二月例